

## 平成 20 年度環境科学センター研究推進委員会意見等への対応

課題名 光化学オキシダント高濃度の発生原因の解明

主な意見、評価等	環境科学センターの対応
<p>○ 光化学オキシダントの高濃度は、アジア大陸からの長距離輸送の影響を含めて、ここ数年注目度が高まっている。従来知見だけでは説明しきれない状況もあることから、新たな研究課題として設定することは、適切な対応であると評価できる。</p> <p>計画内容として、VOCの成分分布に着目することは特に的を射ており、特に神奈川県は石油化学系の発生源を多く有することから、この研究課題は地域固有の問題を扱うテーマでもある。従来の研究で十分に解明されなかった点が少しでも明らかになることが期待される。</p> <p>○ 県民の生活に影響が大きい課題である。全国の自治体でも同様の研究・調査が進められているので、連携やデータの共有化を模索してはどうか。</p> <p>○ 近年、光化学オキシダント注意報の発令回数が増加の傾向にあるとの結果は、丹沢でのブナ林衰退の原因とも絡んで、憂慮すべき問題である。研究の方向性はこれでよいと思われるが、従来から光化学オキシダント発生のメカニズムの解明の困難な点は、原因物質の発生源が遠く離れているケースが多いことにあった。原因物質の究明に当たっては、中国からの移流等も含めて、幅広いサーベイが必要と考えられる。</p>	<p>○ 大気の常時監視のデータから見ると、近年大気汚染物質の移動形態に変化があり、以前は午後には群馬県、栃木県まで運ばれていた大気汚染物質が、東京都や埼玉県あたりにとどまる傾向があることが指摘されています。本研究では、この変化がどの年代から顕著になったかを統計解析により明らかにしたいと考えています。</p> <p>また、実際に、光化学オキシダント注意報レベルの濃度に達する高濃度日に、この大気汚染の移動形態を考慮して、的確な時間と場所でのVOCのサンプリングを実施し、VOCの成分ごとの影響を明らかにする予定です。</p> <p>○ 光化学オキシダントの発生は地域的な特性もありますので、全国的な連携は難しいと考えております。なお、調査解析を行うに当たっては、東京都、千葉県、埼玉県等の関東エリアの地方自治体や国からデータの提供を受ける予定ですので、情報交換を行っていきたいと考えております。</p> <p>○ 光化学オキシダントが高くなる要因としては、その地域の汚染に由来するもの、近隣からの移流、上層からの移動のほか、近年は中国から影響も懸念されており、多くの機関で調査研究が行われておりますので、こうしたさまざまな知見を念頭に置きながら、本県の実態解明を行ってまいります。</p>

## 平成 20 年度環境科学センター研究推進委員会意見等への対応

課題名 光化学オキシダント高濃度の発生原因の解明

主な意見、評価等	環境科学センターの対応
<p>○ 大気環境における挙動解析には地域特性の考慮は不可欠である。本研究に関わる課題の重要性はすでにこれまでも少なからず、各自治体において議論されてきている。従前の取り纏め結果を十分に参照しながら、何に優先性を置くかを見極めてからの遂行が望まれる。限られた時間およびスタッフにより何に着目するかを検討が不可欠と考える。</p> <p>VOCs の挙動把握は、それ自体で意義を有する。光化学オキシダントとの関わりが明確になれば、さらに優れた成果と位置付けられる。</p> <p>○ 光化学オキシダント発生要因の解明は、これによる健康被害の発生抑制対策を考える上で有用である。特に、原因物質の一つである VOC のうち、光化学オキシダントの生成に対する寄与の大きい物質種やその発生源が特定されれば、効果的な対策が講じられるようになると考えられる。</p>	<p>○ 本研究では、本県の光化学オキシダントの発生原因を解明するため、2つの手法で検討することとしております。</p> <p>一つ目は、これまで蓄積した大気汚染常時監視結果、気象条件、汚染物質の移流など、統計的な解析により、地域的な特性を踏まえた原因究明をしていきます。</p> <p>二つ目は、光化学オキシダントの原因物質のひとつである VOC について、個々の成分の光化学反応性を踏まえた地域特性の調査検討を行い、光化学オキシダント生成に大きな影響を及ぼす VOC 成分を明らかにしていきます。</p> <p>これらの結果をもとに、本県における光化学オキシダントの発生原因を解明していくこととしております。</p>